



協働型地域おこし協力隊
すがわら あやこ
菅原 文子さん

着任：令和3年1月(2年目)
出身：南幌町

—これまでの経験について教えてください。

今まで、金融機関や農協、レストランで働きました。大学と大学院で日本の政治を学んでいた夫のすすめがきっかけで、町議会議員として通算14年活動しました。

また、社会人枠で北海道大学公共政策大学院に入学し、公共政策学修士課程を修了しました。

—厚真町に来ようと思ったきっかけは？

町議会議員時代は、小規模な自治体が生き残るためにはどうしたらよいかを研究してきました。厚真町の地域おこし協力隊の取り組みは注目を集めていて、実際に自分で経験してみたいとの思いが強くなり移住を決めました。

—厚真町ではどのような活動をしていますか。

町内にある株式会社伝平さんの畑で、厚真町産メイン「あつまいも」のPR活動をしています。これまでの経験を活かして、積極的に商品開発も行っています。厚真町のお土産として販売を開始したスイーツ「氷室熟成あつまいも夢のスcoop」の売り上げを軌道に乗せたのです。

—どのような会社ですか？

町民が誇れる商品を作りたいとの強い思いから、令和2年5月に設立された新しい会社です。「あつまいも」を使った商品開発や研究を進めています。フライドポテトや羊かん、大学いも、ポテトグラタンなど、試作を繰り返し、商品化に向けた研究や努力を続けています。

—3年後の抱負を教えてください。

まずは3年間で、今の会社をしっかりと維持・成長させることです。そのために会社のことを町内外に向けてさらにPRしていきます。

また、全国各地をリサーチし、小規模の自治体が生き残るためにはどうしたらよいかの研究を続けながら、厚真町に貢献していきたいと考えています。

地域おこし協力隊

厚真町で活動している地域おこし協力隊をご紹介します！

現在活動している協力隊〈4月末現在〉

農業支援員▷9人 教育魅力化支援員▷3人
起業型▷6人 協働型(旧企業研修型)▷12人



農業支援員
しょうじ はやと
東海林 勇人さん

着任：令和3年4月(2年目)
出身：札幌市

—これまでの経験について教えてください。

高校卒業後、介護福祉士の資格を取得しようとグループホームで4年間働きました。その後、農機具やダムの部品を製造する会社に転職して8年間働きました。

—農家になろうと思ったきっかけは？

幼少期から好きだった農業のテレビ番組がきっかけでしょうか。農家さんの誇りを持った姿勢に感銘を受けて、「大きくなったらいつか農家になりたい」という夢を抱くようになりました。転職先を決める際も、この夢を見据えて職業に選びました。

—現在の取り組みを聞かせてください。

研修農場で、農家のマナーや心得、農作物の性質、育て方、土壌の作り方を学んでいます。将来はイチゴ農家を目指しているので、イチゴ農家になるための知識と栽

培技術を高めるための勉強も続けています。

—厚真町を選んだ決め手は？

農家になるための情報収集手段として、新規就農フェアに参加しました。その中で厚真町は自由度が高く、好きな農作物を作れることが選ぶ決め手になりました。妻も田舎で暮らすことに大賛成してくれましたし、三重県から妻の両親が遊びに来ることも想定し、空港が近く利便性が高いことも大きな要因でした。

—厚真町の印象を教えてください。

のんびりとした田舎の雰囲気というのが第一印象です。周囲の農家さんが応援してくれているのもありがたく、頑張ろうという気持ちになります。厚真町の皆さんの温かさがありました。気軽に役場に行って相談できる雰囲気が好きです。

—3年後に向けた目標は？

まずは、いちご部会に迷惑をかけない農家になりたいです。就農1年目は収穫量や収入よりもイチゴの品質にこだわっていきたいです。品質の良くないものを大量に作るのではなく、少量であったとしても品質のいいイチゴを作りたいです。その後、安定した収入が得られるように成長して、家族が笑顔で幸せに暮らせる、そんな農家になりたいです。